



近藤 健一 議員

勝幡駅前整備事業のその後



現在の勝幡駅前

地域要望の状況

経済建設部長

土地、物件補償費など合わせて83・8%である。

名鉄の分については、21年12月7日付で契約調印に至ったものは12筆であり、59筆中57筆で、率にすると96・6%位になる。

質問

11月21日の新聞によれば年内着手との報道があるが。

経済建設部長

海部津島開発公社代行買収をしていたものを21年度から23年度まで3カ年で、まちづくり交付金制度を利用して、公社から買い戻す事業を始めるもの。実際の工事は、24年度、25年度で行っていく予定。

質問

勝幡駅西の踏切の予定はどうか。

経済建設部長

現在、名鉄側と話を進めている最中。計画としては23年度までに完成する予定。

質問

道路舗装、側溝など総代が、地域をまとめ、順位をつけて、要望が出てくるが、公平な立場で事業が行われているか。

経済建設部長

佐屋、立田、八開、佐織、地区別に道路台帳をもとにした普通交付税の算出で、基準財政需要額の率にて事業額がどのくらいになるといえるのが数字として出せる。予算が認められた中で、その基準財政需要額の率で大まかに地域編成の中へ金額を振り分ける。大きい集落には、ある程度事業費として、小さい集落よりは投入をし、要望にこたえている。

質問

22年度予算は。

経済建設部長

財政課サイドのヒアリングを終えた段階で、21年度並の予算要求をしているところである。

現在発注している状況は、佐屋地区は、側溝要望32件で発注19件59・4%、舗装要望57件で発注27件で、47・4%。

立田地区は、側溝要望52件で発注12件、23・1%、舗装要望46件で発注8件17・4%。

質問

6月議会のときに、土地、家など合わせて約70%弱の進捗をしているとの答弁だった。

その後11月末での進捗状況は、また、名鉄敷地の件はどうなっているのか。